



# 2022年度日本語教育学会春季大会

2022(令和4)年5月21日・22日 / オンライン開催

開会式は、事前のオンデマンド配信での開会挨拶のみとなります。

## 目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
一般公開プログラム	6
発表一覧：口頭発表	7
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	14

### ◆今大会の実施方法について◆

2022年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。

・学会発表については、以下の3つの方式の組み合わせにて行います。

なお、今大会ではパネルセッションの発表はありません。

- ①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2022年5月13日（金）～6月5日（日）  
（口頭発表：ビデオ20分、ポスター発表：ポスター掲示）
- ②事前の指定フォームによる質問受付：2022年5月13日（金）～5月20日（金）正午
- ③大会当日のZoomによる同時双方向型の質疑応答：2022年5月21日（土）・22日（日）  
（口頭発表：20分、ポスター発表：40分）

※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。

・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「春季大会・秋季大会」のページ（<http://www.nkg.or.jp/jissensha/taikai>）にて、今後公開される告知等をご確認ください。

・オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。

・無料プログラムへのご参加は、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（4月中旬に詳細を公開予定）。

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費（有料プログラム）：

【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】

会員 3,500円

会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000円

会員でない方 5,000円

【当日受付】オンライン開催では行いません。

◆事前登録期間：2022年4月16日（土）～5月10日（火）

※例年より締切が早い因此ご注意ください。

◆問合せ先：

E-mail: [taikai-office@nkg.or.jp](mailto:taikai-office@nkg.or.jp)（下記を除く大会に関する問合せ先）

[nkg.taikai@gmail.com](mailto:nkg.taikai@gmail.com)（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）

TEL: 03-3262-4291

# ◆大会日程◆

\* 印のイベントの概要は、14～19ページをご覧ください。

5月21日(土)

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
有料プログラム			12:00-13:00 *わかばさん いらっしやい	13:00-14:20 2会場×3発表 口頭発表 土曜の部 (各20分)	14:40-15:20 各種説明会 *国際連携委員会 *文化庁委託事業 特別委員会				
無料プログラム	10:00-12:00 一般公開プログラム (無料)		12:00-13:00 4会場 *Net-J (無料)	※今大会でのパネルセッションの発表はありません。					15:30-17:20 1会場×4セッション 3会場×3セッション *賛助団体会員出展ブース [活動紹介・書籍紹介・教材紹介等] (無料) (各30分)

5月22日(日)

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
有料プログラム	9:30-12:20 2会場×6発表 口頭発表 日曜午前の部 (各20分)		12:30-13:30 *ぶらさだわかば	12:40-13:20 各種説明会 *国際交流基金 *国立国語研究所 *国際協力機構 (各40分)	13:40-15:00 2会場×3発表 口頭発表 日曜午後の部 (各20分)	13:40-16:00 3会場×3発表 (第3会場は2発表のみ) ポスター発表 午後の部 (各40分)		
無料プログラム	9:20-12:30 3会場×4発表 ポスター発表 午前の部 (各40分)		11:00-14:00 ブレイクアクト形式 *賛助団体会員出展ブース [活動紹介・書籍紹介・教材紹介等] (無料)					

# 開催のご挨拶

---

公益社団法人日本語教育学会では、次の3つの社会的研究課題を設定し、2017年度より各委員会が連携し、取り組んでまいりました。

公益社団法人日本語教育学理念体系より

[http://www.nkg.or.jp/pdf/hokokusho/nkg\\_rinen\\_2017-0407.pdf](http://www.nkg.or.jp/pdf/hokokusho/nkg_rinen_2017-0407.pdf)

- 課題1： 日本語教育学の「学問的専門分野」としての体系的枠組みの構築
- 課題2： 日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築
- 課題3： 多様なキャリア形成のための日本語教育内容の体系的再編成

課題1は、次の通りです。

日本語教育関係者が日々研究・実践している多様な課題や領域の全体を「学的領域」として改めて捉え直し、その包括的領域内の個々の課題や領域の相関関係を体系的に整序して、「新たな学問的専門分野 (discipline) としての日本語教育学」の「学としての概念的輪郭」を描出・記述する。

「日本語教育学」と言えば、誰もがおよそその研究・実践の領域的輪郭を描くことができ、多様な諸活動を支える中核的な基礎概念・方法論的立場・評価基準などを緩やかに共有することができ、「人をつなぎ、社会をつくる」ための通用性のある「固有の学的専門性」を主張できることを目指す。

課題2は、次の通りです。

日本語教育の研究者・教育者・実践者の育成方法、教育内容、教育体制の多様化と深化を見据えた上で、日本国内外の人材育成の在り方を抜本的に再検討する。

高等教育段階における「学術的・専門的な日本語運用能力」、地域社会における「日常生活的な日本語運用能力」、初等中等教育 段階における「児童・生徒の自我の成長を 支え教科学習に参加できる日本語運用能力など、多様な「日本語運用能力」の育成・強化に関する現状・問題点・課題・必要性（ニーズ）を摘出・確認し、多様な日本語教育を担う柔軟で即応力のある日本語教師に求められる知的・技術的・人間的な素養について再検討する。

日本にとって地理的に近いアジア地域や 世界各地の日本人の移住・集住地域などを軸にしつつ広く諸外国・諸地域における日本語教育の在り方について、また、それぞれの地域における日本語人材や複言語人材の養成・研修の在り方について地政学的な観点から再検討し、相互交流・相互理解そして共生社会形成の素地作りについて、議論を喚起していく。

# 開催のご挨拶

---

課題3は、次の通りです。

研究者や高度職業人として必要なコミュニケーション能力育成、「生活者としての外国人」の職場や地域社会におけるコミュニケーション能力育成、また年少者を含む生活者のキャリア形成やキャリアアップのための包括的教育・学習支援の在り方を研究・開発する。

同時に、そのような日本語人材・複言語人材の多様な組織や日本社会への受け入れによる社会的インパクトについて、また少子高齢化する日本社会の活性化への将来的影響等についても研究し、併せて多文化・多言語を背景とする人々をつなぎ、多元的な共生社会を創っていくための日本語教育施策の在り方と意義についても議論を喚起する。

課題1～3は繰り返し順に取りあげられ、1つの課題は「春季大会発表募集テーマ」「春季大会一般公開プログラム」「学会誌特集テーマ」が連動することにより、具体となります。

2022年度春季大会においては、課題3から「海外の日本語学習者にとってのキャリア形成」を発表募集テーマとして設定いたしました。

大会1日目、一般の方向けに、この課題に関連するディスカッション「日本語から広がるライフキャリア形成—世界を、日本語と生きる—」が、世界各地とオンラインで結んで実施されます。看護、IT、出版、観光、医学、日本語教育等の職業的経験を有する6名による語りから、日本語を学ぶ意味を、キャリアにおける自己実現という文脈で考えます。その他、2日間で、テーマ関連の発表を含めて、口頭発表が24件、ポスター発表が20件ございます。研究動向や教科書の史的変遷に関するレビュー、看護介護関係者・技能実習生・地域住民・外国人高校生を対象とする多様な社会的文脈における研究、そして、プログラムや教材・ツールの運用上の課題に関する研究もあり、内容は幅広く多彩です。日本語教育学の研究・実践を鋭角に深く探り、複層的な視点で滑らかに捉え直し、次なる発展の可能性を探るチャンスです。是非ご参加くださり、発表者とともに明日のために探求し・創造する場をつくりましょう。

最後に、恐れと怒りを制御し対話を続ける世界の皆さんに私たちの声を届けます。ことばを学び、そのことばで紡いだ関係は、空間を超えて社会に信頼をもたらします。そこにはきっと、武力を跳ね返す強さとしなやかさと、そして伸び広がる力があります。そこで生まれる対話は緊張関係を解きほぐし、共感的理解と批判的なまなざしを育み、社会を変える行動を生み出すはずです。私たちは、こうして大会を開催できることに感謝しつつ、ことばの力を信じ、平和と人々の尊厳のために、対話による教育を続けます。すべての人々が幸福な未来を手にする世界であることを心から願います。

公益社団法人日本語教育学会会長 齋藤ひろみ

\* 無料でご参加いただけます。

## 日本語から広がるライフキャリア形成 —世界を、日本語と生きる—

5月21日(土) 10:00 ~ 12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。このプログラムでは、アジア、アフリカ、ヨーロッパ出身の方々が、どのような思いで日本語を学び、習得し、人生のステージ、ライフキャリアにどのように生かし、日本語とともに生きているか、日本国内ならびに現地から生の声で語り合います。

参加者の皆さんは、日本語と日本語教育が世界の人々とその人生、社会といかに広く深く関わり、つながり得るのか、豊かな可能性を目の当たりにするでしょう。さらに、日々の日本語学習のもつ意義や将来性、地道な教育実践と創造的な研究の積み重ねがもたらす大きな希望を感じ取り、皆さんの今後の活動への原動力になることと思います。

また、司会にはさまざまなイベントや企画でご活躍の丸山陽子氏をお迎えします。登壇者の方々による活発な意見交換をお楽しみください。

### 登壇者（五十音順）：

イスウォロ・アグネスティラルシー氏（インドネシア）  
チャダ・アディティ氏（インド）  
トランボエフ・ウミドジョン氏（ウズベキスタン）  
ポーンピルン・キットソムジエート氏（タイ）  
グレコ・ジュリア氏（イタリア）  
ベリフ・メスフィン氏（エチオピア）

### 司会：

丸山陽子氏（神戸大学キャリアセンター）

助成：一般社団法人尚友倶楽部

\* 本プログラムは Zoom ウェビナーにて行います。開催近くになりましたら日本語教育学会ウェブサイト等で URL をご案内いたしますので、当日直接オンライン会場にお越しください。事前予約不要、当日先着 1,000 名様とさせていただきます。

※今大会でのパネルセッションの発表はありません。

## 口頭発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「海外の日本語学習者にとってのキャリア形成」に関連した発表です。

土曜の部〔13:00～14:20（各20分）〕

	第1会場	第2会場
	<b>司会：</b> <b>【①～③】横山紀子（元・昭和女子大学）</b>	<b>司会：</b> <b>【④～⑥】西口光一（大阪大学）</b>
13:00～13:20	<b>①</b> 日本に永住帰国したサハリン残留日本人2世のライフストーリー—CEFRにおける仲介の観点から—  佐藤正則（山野美容芸術短期大学） 三代純平（武蔵野美術大学）	<b>④★</b> フランスの大学生は日本語の発音学習をどのように意味づけたのか  大戸雄太郎（早稲田大学大学院生）
13:30～13:50	<b>②</b> 日本語学習者の「学習の振り返り」に対する否定的な認識の背景と要因—中国・広東省のある高等教育機関での実践と質問紙およびインタビューによる調査から—  末松大貴（名古屋大学大学院生）	<b>⑤★</b> 「使うあてのない日本語学習」は学習者に何をもたらすのか  山内薫（明治学院大学）
14:00～14:20	<b>③</b> 論証に基づく妥当性検証の枠組みによるスピーキングテストの検証—意見述べを例として—  ボイクマン総子（東京大学） 根本愛子（同） 松下達彦（国立国語研究所）	<b>⑥★</b> 国内大学留学生のキャリア意識と行動—アンケート調査の統計分析から—  寅丸真澄（早稲田大学）、家根橋伸子（東亜大学） 佐藤正則（山野美容芸術短期大学）、 松本明香（東京立正短期大学）

## 口頭発表一質疑応答一

日曜午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

### 第 1 会場

司会： 【⑦～⑨】神村初美（ハノイ工業大学） 【⑩～⑫】有田佳代子（新潟大学）	
9:30 ~ 9:50	<p>⑦ 外国人介護士の語りにみられる介護施設内コミュニケーションの困難点</p> <p>國澤里美（群馬県立女子大学），和田礼子（鹿児島大学） 吉里さち子（熊本大学），嵐洋子（杏林大学）</p>
10:00 ~ 10:20	<p>⑧ 外国人介護職員の日本語理解についての評価とその要因—日本人職員へのアンケート調査の結果から—</p> <p>吉里さち子（熊本大学），和田礼子（鹿児島大学） 國澤里美（群馬県立女子大学）</p>
10:30 ~ 10:50	<p>⑨ 学術論文における「～によると」「～によれば」の使用環境</p> <p>向井留実子（愛媛大学） 中村かおり（拓殖大学） 近藤裕子（山梨学院大学）</p>
11:00 ~ 11:20	<p>⑩ 技能実習生を教える日本語教師の教師観形成と変容—TEA（複線径路等至性アプローチ）を用いて—</p> <p>藤田周三（一橋大学大学院生）</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑪ 留学経験を持つ中国人日本語教師キャリア形成プロセスと影響要因—複線径路・等至性アプローチによる可視化を通して—</p> <p>雍婧（一橋大学大学院修了生）</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑫ 実習生が抱く「職業としての日本語教師」への不安要素—アンケート調査の結果から—</p> <p>秋田美帆（関西学院大学） 牛窪隆太（東洋大学） 徳田淳子（東京中央日本語学院）</p>

### 第 2 会場

司会： 【⑬～⑮】中俣尚己（京都教育大学） 【⑯～⑱】森篤嗣（京都外国語大学）	
	<p>⑬ 多聴多観におけるゲーム活用の可能性—学習者の語りから—</p> <p>横山りえこ（早稲田大学大学院生）</p>
	<p>⑭ ベトナム人日本語学習者の長音の産出面における困難点—知覚面との違いに着目して—</p> <p>田中真由美（日本福祉大学）</p>
	<p>⑮ 学習者の「誤用」から見える日本語の特徴に関する一考察—存在を表す「てある（ている）」を例に—</p> <p>庵功雄（一橋大学）</p>
	<p>⑯ 日常談話における「ちょっと」の機能</p> <p>西村史子（ワイカト大学） 鹿嶋恵（熊本大学）</p>
	<p>⑰ 初級後半における文作成活動を取り入れた語彙学習の効果と改善点に関する考察</p> <p>アドゥアヨム・アヘゴ希佳子（宝塚大学） 斉藤知花（東京国際大学），大住あかり（同） 波多野博頭（筑波大学）</p>
	<p>⑱ 日本語語彙問題の選択肢自動生成プログラムの開発と検証</p> <p>梁震（京都大学大学院生）</p>

## 口頭発表—質疑応答—

日曜午後の部 [13:40 ~ 15:00 (各 20 分)]

### 第 1 会場

司会：  
【⑱～㉑】橋本ゆかり（横浜国立大学）

- 13:40 ~ 14:00
- ⑱  
タイ中等教育機関における日本語学習者の学習意欲の変動と影響要因—日本語専攻の高校生に対する質問紙調査から—  
大竹春菜（筑波大学大学院生）
- 14:10 ~ 14:30
- ⑳  
交流協定による短期留学生の日本語科目選択理由の 4 類型  
根本愛子（東京大学）  
ボイクマン総子（同）  
松下達彦（国立国語研究所）
- 14:40 ~ 15:00
- ㉑  
オンライン授業における自律学習型クラスの可能性  
白頭宏美（慶應義塾大学）

### 第 2 会場

司会：  
【㉒～㉔】義永美央子（大阪大学）

- ㉒  
日本語教育における翻訳の再定義に向けて—日本語教師向けアンケート調査の結果から—  
行木瑛子（沖縄大学）  
土居菜津子（国際教養大学大学院生）
- ㉓  
日本語学校の新人研修担当教師の葛藤—養成講座出身者に対する研修を行った教師へのインタビューの分析—  
水野瑛子（名古屋大学大学院生）
- ㉔  
フィリピンルーツの子どもをつなぐ実践共同体の創出—タガログ語の使えるオンラインの「へや」—  
大塚弓子（南山大学大学院生）

## ポスター発表—質疑応答—

### 第1会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40 分)]

9:20 ~ 10:00

①

近代日本語教科書にはどのようなことばがとりあげられていたのか—『近代日本語教科書語彙索引』の製作過程および日本語教育史資料・日本語史資料の共有のために—

伊藤孝行 (北海道大学)

10:10 ~ 10:50

②

ローカル・ガバナンス構造から見た散住地域外国人住民のライフキャリア形成と日本語教育—X市におけるフィールド調査から—

家根橋伸子 (東亜大学)

山本晋也 (周南公立大学)

11:00 ~ 11:40

③

日本語音声教育の視点から見た研究動向—「日本語教育」と「音声研究」の比較—

高橋恵利子 (防衛大学校)

大久保雅子 (東京大学)

木下直子 (早稲田大学)

11:50 ~ 12:30

④

依頼場面における中国人・韓国人日本語学習者の配慮の表し方—I-JASのロールプレイに見られる「配慮表現」に着目して—

須賀和香子 (国立国語研究所)

細井陽子 (山野日本語学校)

## 第2会場

- 9:20 ~ 10:00
- ⑤  
オンラインで学ぶ海外日本語学習者の特性を探る  
—「JFにほんごeラーニング みなと」登録者を対象に—
- 中尾有岐 (国際交流基金)  
三宅直子 (同)
- 10:10 ~ 10:50
- ⑥  
教師とのインターアクション時に起きる学習者間の母語による「自律的な自発的発話」—社会文化理論から見た支援の諸相—
- 加藤伸彦 (東海大学大学院生)
- 11:00 ~ 11:40
- ⑦  
短期ジャパスタディープログラムの意義と課題  
—オンライン型と渡日型の比較から—
- 高橋桂子 (武蔵野大学), 難波房枝 (同)  
小倉文根 (同), 矢野和歌子 (同)  
河野多佳子 (アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター)  
岡田千帆 (テンプル大学日本校)
- 11:50 ~ 12:30
- ⑧  
私たちはどのように世界を見ているのか—ジャーナル・レビューからみる日本語教育方法論の行方—
- 八木真奈美 (駿河台大学)

## 第3会場

- ⑨  
看護教員と看護留学生が日本語教員に求めることとは—看護学部でのインタビュー調査から—
- 山元一晃 (金城学院大学)  
加藤林太郎 (国際医療福祉大学)
- ⑩  
フィリピン人技能実習生の日本語学習意欲に関する実態調査—渡日後の日本語使用機会と学習を求める場面からの分析—
- 前田由樹 (エリザベト音楽大学)  
中原郷子 (長崎外国語大学)
- ⑪  
日本語教育機関における業務可視化のための管理運営業務ポイント化ツール開発の試み
- 中川健司 (横浜国立大学)  
平山允子 (日本学生支援機構)
- ⑫  
外国人介護従事者は国家試験で何に躓くのか—介護の専門知識の定着と問題形式—
- 丸山真貴子 (明海大学)  
三橋麻子 (大原学園)

## ポスター発表—質疑応答—

### 第1会場

午後の部〔13:40～16:00（各40分）〕

13:40～14:20

⑬

地域日本語教室における「Can-do」活用に関する一考察—岐阜県坂祝町の事例を通して—

新井克之（朝日大学）  
藤田裕一郎（同）  
秋松侑希（ECC 日本語学院名古屋校）

14:30～15:10

⑭

高等学校における外国人生徒等への日本語教育の現状と課題—質問紙調査の結果から—

齋藤ひろみ（東京学芸大学）  
武内博子（同）  
南浦涼介（同）

15:20～16:00

⑮

日本語の「～てくる／～ていく」と中国語の“～来／～去”に見る日中言語話者の事態把握の傾向

管晶（お茶の水女子大学大学院生）

★印は、今大会のテーマ「海外の日本語学習者にとってのキャリア形成」に関連した発表です。

## 第2会場

13:40 ~ 14:20 ⑯  
渡日待つ大学院留学生に対する日本語教育の  
試み—医療系留学生に「いろいろ」を活用した実践—

伊藤美保 (藤田医科大学)

14:30 ~ 15:10 ⑰  
日本語教材作成における学びの分析—入門期の学  
生の場合—

稲葉みどり (愛知教育大学名誉教授)

15:20 ~ 16:00 ⑱  
論文読解・作成支援のための「~となっている・  
なっていた」の「文型」提示の提案—社会科学系  
の論文中間章における出現頻度と意味・談話機能の分  
析をもとに—

新實葉子 (立命館大学), 中嶋容子 (同)  
松本理美 (大阪樟蔭女子大学), 大島弥生 (立命館大学)

## 第3会場

19★  
就労者に対する日本語教育 (SJ) 指導者育成研  
修モデルの開発—モニター研修の検証を踏まえて—

品田潤子 (BPC 研修サービス), 倉本文子 (KAI 日本語スクール)  
近藤彩 (昭和女子大学), 金孝卿 (麗澤大学)  
住吉尚子 (ARC 東京日本語学校),  
多田苗美 (神田外語キャリアカレッジ)  
小笠恵美子 (昭和音楽大学)

20★  
「特定技能介護士」現地学習開始から日本就労  
までの実践報告—カンボジアと日本の連携に焦点を  
当てて—

上田潤子 (早稲田大学)  
中野玲子 (日本語みらいラボ)  
滝島由紀 (フリーランス)

## わかばさんいらっしやい

[5月21日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などをご説明します。大会当日は動画の内容について簡単に質疑応答を行なった後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士でお話しできる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきっともっと楽しくなり、また大会終了後もネットワークはどんどん広がっていくでしょう。参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

## 日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J) 研究会紹介ブース

\* 無料でご参加いただけます。

[5月21日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J)は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会(事務局)の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談をお受けすることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については各団体のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

\* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトでご公開予定です。

## 賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等]

\*無料でご参加いただけます。

[5月21日(土) 15:30～17:20 / 22日(日) 11:00～14:00]

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、50団体が入会しています。(2022年3月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。双方向型オンラインセッション、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信のほか、より自由な交流が可能な場も設けました。ぜひご参加ください。

\* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。

\* 出展の詳細は、19ページをご覧ください。

## ぷらさ da わかば

[5月22日(日) 12:30～13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことで、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分から「センパイ」に話しかけることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぷらさ da わかば」です。少人数(1～3人)で1人の「センパイ」を囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、「センパイ」の経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のない「センパイ」と自由に対話をしてみませんか。今大会も「ぷらさ da わかば」は、オンラインで実施します。参加希望の方は大会参加申し込み後、「ぷらさ da わかば」にお申し込みください。定員は20名程度、先着順です。詳しい申し込み方法や「センパイ」のプロフィールはチラシまたは学会ウェブサイトをご覧ください。

## 「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」説明・相談会

[5月21日(土) 14:40 ~ 15:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会

「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」は、国内の日本語教育分野の若手研究者・実践者が海外の日本語教育現場の協力者とともに行う研究、教育に関する活動の費用の一部または全額を助成するプログラムです。一般社団法人尚友倶楽部の支援のもとに、日本語教育学会が実施しています。(http://www.nkg.or.jp/kokusai をご参照ください)

本年度は、対面、もしくはオンラインでの研究、教育に関する活動、実践を支援の対象とし実施します。本説明・相談会では、前年度の受給者から、本プログラムを活用し、研究、活動をして良かった点などを語ってまいります。また、国際連携委員会の委員が助成プログラムについて説明をし、質問等を受け付けます。本プログラムの具体像を掴んでいただくことができますので、より多くの日本語教育分野の若手研究者・実践者に活用していただきたいと考えています。ご関心がある方の参加をお待ちしています。

\* 実施方法は、学会発表と同様です(2ページ参照)。

## 文化庁委託「研修事業(初任・児童生徒／中堅)」の紹介

[5月21日(土) 14:40 ~ 15:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 文化庁委託事業特別委員会

本学会が受託している文化庁委託事業「日本語人材の研修モデルプログラム普及事業」として実施した「子どものための日本語教育研修」(2020, 2021)と、「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム(略称: JCN研修)」(2021)についてご紹介します。

子ども研修は初任日本語教師対象のコースと講師育成のコースをオンラインで実施しました。両コースとも動画教材のオンデマンド学習・スクーリング・実習を行い、その他に初任は課題遂行とその共有、講師育成はチューター活動や研修計画の作成などを行いました。これらの活動を通して対話のある学びとなりました。

JCN研修では、自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することを目的とした中堅研修および講師育成の両コースをフルオンラインで実施しました。

受講をお考えの方、研修の内容・方法に関心のある方、どうぞご来場ください。

\* 本プログラムは、当日のZoomミーティングのみで行います。

## 「ひきだすにほんご / Activate Your Japanese!」のご紹介

[5月22日(日) 12:40 ~ 13:20]

主催：独立行政法人国際交流基金日本語国際センター

「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」は「ストラテジー」をキーワードにした日本語学習番組です。日本での生活や就労を希望する方々、日本の社会生活について学びたい日本語学習者を主な対象に、国際交流基金がNHK エデュケーショナルと共同で制作しました。2022年4月11日(月)よりNHK ワールド Japan で放送中、オンデマンド配信もされています (<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/activateyourjapanese/>)。

番組は、日本で奮闘する主人公スアンの成長をつづったドラマ「スアン日本へ行く!」、オノマトペをカラフルなアニメーションとスキットで紹介する「気持ち伝わるオノマトペ」、日本で活躍するセンパイたちを紹介するドキュメンタリー「全国津々浦々 日本のセンパイ」の3コーナー15分、全24回です。

説明会では、番組の趣旨、番組の軸とした「ストラテジー」の考え方、視聴の際のポイントなどについてご説明します。ぜひ、事前に上記オンデマンドで番組1回分をご視聴のうえご参加ください。

\* 実施方法は、学会発表と同様です (2ページ参照)。

## 国立国語研究所日本語教育映像教材シリーズ公開についての説明会

[5月22日(日) 12:40 ~ 13:20]

主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所

国立国語研究所では、日本語教育の教材がまだまだ十分に開発されていなかった1974年から1995年にわたり、3種類の日本語教育のための映像教材を制作しました(基礎編1974-83年制作、中級編「伝えあうことば」1986-89年制作、初級編「日本語でだいじょうぶ」1993-95年制作)。教材の制作だけでなく、映像を利用した日本語教育の普及活動も行い、日本語教育に大きな影響を与えました。日本語教育映像教材シリーズはこれまでVHSで提供していましたが、このたび映像のデジタル化を行いました。2022年度よりデジタル化映像を希望の方に広く提供いたします。また、関連教材のうちシナリオ集・語彙集のテキストデータは、オープンデータとしてインターネット公開いたします。

今回の説明会では、デジタル化映像の利用手続きや、一般公開するシナリオ集・語彙集のテキストデータについてご説明します。また、日本語教育映像教材シリーズを含む国立国語研究所の収蔵資料の利用を目的とする、公募型研究の制度についても情報提供をいたします。

\* 本プログラムは、当日のZoomミーティングのみで行います。

## JICA 海外協力隊経験を国内の日本語教育に活かす

[5月22日(日) 12:40 ~ 13:20]

主催：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

多文化共生社会の実現に向け、JICA 海外協力隊の開発途上国での日本語教育の経験や希少言語の知識を国内の日本語教育や円滑なコミュニケーションの支援に活かしていくことが期待されています。

たとえば、開発途上国からの留学生や外国人材への日本語教育、外国につながるのある児童・生徒への日本語指導や地域における日本語教育、希少言語の通訳・翻訳や教材開発などが考えられます。

このように開発途上国での経験を日本社会で活かすことを後押しする仕組みとして、民間（日本語学校や日本語教師養成研修機関含む）・自治体・大学等との連携による派遣や現職参加促進制度、帰国後、JICA 海外協力隊参加者がさらに専門性を高め、活躍の場を広げるための帰国隊員奨学金事業や無料職業紹介事業などをご紹介します。

また、JICA 海外協力隊 2022 年春募集において、開発途上国のどのような機関からどのような要請があるのかについてもご紹介します。

\* 本プログラムは、当日の Zoom ミーティングで行い、事前質問も受け付けます。

5月21日(土) (団体名及びキーワード)

第1部 [15:30 ~ 16:00]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
株式会社 アスク出版  書籍紹介	一般社団法人 Global 8  日本語コミュニケーション テスト/CEFR等熟達度	公益社団法人 国際日本語普及協会  書籍紹介/教材紹介	株式会社 くろしお出版

第2部 [16:10 ~ 16:40]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 ひつじ書房  書籍紹介	一般財団法人 日本国際協力センター  就労者/課題達成型	株式会社 ワールディング  活動紹介/実践報告

第3部 [16:50 ~ 17:20]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 三修社  書籍紹介/活動紹介	株式会社 インターカイト日本語学校  海外/継承日本語	株式会社 ジャパントイズ出版  教材紹介

5月22日(日) Zoom ブレイクアウトルームによる自由交流

11:00-14:00	株式会社 アスク出版	「教材をもっと使いこなしたい」「授業導入のため実践例を知りたい」そんなご要望や疑問に双方向でお答えする場をご提供いたします。
11:00-14:00	株式会社 三修社	「ねっこ日語学習辞書」のご紹介とモニタリング募集についてご案内いたします。書籍の購入についても、お気軽にご相談ください。
11:00-14:00	株式会社 スリーエーネットワーク	(内容は当日お知らせします。)
11:00-14:00	株式会社 ひつじ書房	新刊の紹介をします。もしかしたら、サプライズミニシンポジウムを開催するかもしれません。企画のご相談も承ります。お気軽にお越しください。
11:00-14:00	株式会社 凡人社	(内容は当日お知らせします。)
12:00-13:00	一般社団法人 Global 8	ACTFL準拠の日本語コミュニケーション力測定と熟達度を考えます。
13:00-14:00	株式会社 くろしお出版	(内容は当日お知らせします。)

- ◆動画・資料配信：有限会社 Jリサーチ出版，株式会社 スリーエーネットワーク，株式会社 ラーンズ
- ◆資料配信のみ：株式会社 ココ出版，公益財団法人 日本漢字能力検定協会，株式会社 研究社

\* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。